

大串明弘作 「銃社会」

<前編>

(効果音) (不安そうなイントロ音楽)

ナレーション 1992年10月31日、ロサンゼルス郊外。

(効果音) (ドアのノック音)

友人 Trick or treat! (お菓子をもらう) Thank you! へへ、お菓子が大分たまったぞ。ハロウィーンはエサ代浮かすチャンスだよ。へい、ヨシ。今度はこの家、行ってみようか。

渡辺義男 オーケー。じゃ次は僕がノックする番だね。

(効果音) (ドアをノックする音。反応がないので、何度か。)

義男 あれ? ここの家の人、留守なのかなあ。さっき窓からだれか見えたと思ったんだけどなあ。

友人 ヨシ、あんまりそっち行っちゃダメだよ。

(効果音) (急にドアの開く音)

男A Hey! Freeze!

義男 あ、やっぱりいた。Trick or ...

友人 (かぶせるように)ヨシ! やめろ!!

(効果音) (「バーン」と銃声)

友人 ヨシ——!!

義男の父 (かぶせて)義男——!!(目が覚める)

義男の母 あなた、大丈夫ですか?

ナレーション それから2年後、東京、渡辺宅。

父 (ため息)義男、義男…。何で死んじゃったんだ!

母 あなた…。また義男の夢を…。もうあの子が死んでから2年もたつというのに。

父 ああ。お前には黙っていたが、実はよく夢に見るんだ、義男が撃たれた時のことを。

(効果音) (教室のガヤ)

ナレーション (青春高校の教室)

岡田 おう、豊!

郷豊 あ、先輩。こんにちは。

岡田 どうしたんだよ。元気ないじゃん。調子悪いのか?

豊 いや、別にそういうわけじゃないんですけど…。

岡田 何だよ。悩みがあるんなら言ってみろよ。

豊 はい。…実は、おれ、アメリカに行くのが怖いんです。

岡田 え？ アメリカに行くのが怖い？ だってお前、もうすぐ出発だろう？ …ああ、例の留学生射殺事件か。

豊 そうなんですよ。だから困ってるんです。

豊ナレーション おれの名前は郷豊。青春高校 2 年生。おれには大きな夢がある。それは、スピルバーグのような映画を作る名監督になることだ。今は高校生だからまだ早いけど、あとあとには、映画の勉強をするためにロスに留学するつもりだ。その準備と言ってはなんだけど、向こうの文化や語学を勉強しに、1 年間留学することにした。その出発日が 3 日後に迫った今、急にアメリカに行くのが怖くなってしまったのだ。部屋で一人悩んでいたおれに話しかけてくれたのは、同じ部活で 1 年上の岡田先輩。クリスチャンだそう。岡田先輩は去年アメリカに行っていて、おれのホームステイ先も紹介してくれたんだ。何でも、先輩が行っている教会に宣教師がいて、その人がいろいろと世話をしてくれたらしい。

豊 あの事件を聞いて、母や親せきが心配しちゃって、やっぱりそんな危険な国には行かないほうがいいんじゃないかって言い出しちゃったんですよ。

岡田 そっか。それでビビってるわけだ。

豊 ええ、そうなんです。だって、アメリカでは約半数の家で、銃を持っているっていうじゃないですか。それにアメリカ人って、自分の身は自分で守れっていう考えがあるでしょう？ だから何となく怖いんですよ。彼ら、体も大きいし…。もし誤解を招く行動をしてしまったらどうしようかと考えちゃって。2、3 年前にハロウィーンで訪問する家を間違えて射殺されてしまった留学生もいたじゃないですか。

岡田 うん、そうだよな。アメリカでは銃を持つ権利が憲法で保障されてるし、「銃の力」を信奉している人たちも多いもんなあ。

豊 でも、法律や警察が整備されている先進国で、どうして自衛のための銃が必要なのかなあ。銃があるから悪用される、悪用されるから自衛のために銃が要る。何か悪循環のような気がするなあ。結局、銃をだれでも持てるってことが、諸悪の根源でしょ？

岡田 そうだよなあ。そもそも自衛するんだって、危険から自由になるためだろうけど、ここまで来ちゃうと、いつも「撃たれる」という潜在的危機感にさらされて、逆に「自由」を失っているんじゃないかと思うよな。…あ、いけね。もうこんな時間だ！ 豊、悪い！ おれ、予備校行かなくちゃいけないから、またな。でもあんまりくよくよ考えんなよ。悪いところもあるけど、やっぱりアメリカはいいぞ。あ、何かあったら電話しろよ！

豊 はい、ありがとうございます。あ、それと先輩、明日の日曜日、宣教師の先生

にごあいさつがてら、教会に行きますのでよろしくお願いします。

岡田 おう、分かった。地図は渡したよな。待ってるぞ。じゃあな!

豊モノローグ 先輩も受験か。大変だなあ。「アメリカはいいぞ」か…。

ナレーション 再び渡辺宅。

義男の父 母さん、大統領に送る「銃規制を求める署名」はどれくらい集まったんだい?

母 そうですね。日米合わせて約 200 万人分も集まりましたよ。

父 おお、そんなにか! アメリカでも銃規制を求める人が大勢いると聞いたが、やはり「銃社会」に悩んでいるのはアメリカ人自身なんだな。

母 でも、今日届いた手紙の中に、差出人の書かれていないものがあった、こんなことが書いてありました。「『郷に入っては郷に従え』と子供に教えなかったのか? 高校生が子供のふりをして、大人の強盗に見られたのは当然の報いで、国民すべてが同情しているわけではない。」

父 また反対意見か…。この前はわたしたちのやっている署名運動に対して、「内政干渉」だとか、「日米関係があっ渴したらどうする」だとかいう反対意見を書いてきた人がいたな。確かに、その人たちの言うことにも一理あるかもしれん。差出人さえ書いてくれたら、返事を書くこともできるのに…。銃は、たった一発で、撃たれた人の夢や人生のすべてを、一瞬のうちに砕いてしまう。わたしたちはその恐ろしいことを分かってほしいだけなのだが…。

豊ナレーション そのころ、おれは家に帰る途中だった。

豊モノローグ (ため息) どうしようかなあ。今ならまだやめられる。無理して行って殺されたら、夢どころじゃないもんなあ。あれ? あの人、どうしたんだろう。

豊ナレーション ふと向こうを見ると、マックから大柄な白人が、背の低いチンピラに胸元をつかまれて出てきた。だが、どこから見ても、チンピラ風の男には勝ち目がなかった。白人はいかにも武道をやっているような体格だし、男はヒョロヒョロで、いかにも弱そうだった。が、そのヤセの小男が、見上げるような外人にケンカを売っているのだ。

男B お前、外人のくせにおれを泥棒扱いしようってのか? おれはな、この万札拾ったんだよ!

宣教師 いいえ、そのお金は彼女が落としたんです。わたし、見てました。そうですね? あなたが落としたんでしょう?

女性 ええ、まあ…。

男B ふざけんなよ、お前。おれが拾った金はおれのもんなんだよ! ウダウダ言っつと、ただじゃ済まさねえぞ。おれの後ろにはな、近藤組がついてんだぞ!

宣教師 わたしには、イエス様がついてます。ですからわたし、何も怖くありません。それは彼女のお金です。彼女に返してあげてください。

女性 (かぶせて) 外人さん、もういいです!

男B 　　いつまでも言ってんじゃねえよ！
(効果音) 　(男が宣教師を殴り、ける音。)
男B 　　おら、何とか言ってみろよ！何がイエスだ！結局おれのバックが怖くて手出し
できねえんじゃねえかよ！
(効果音) 　(なおも殴り、けり続ける音。)
女性 　　きゃー！だれか助けて！やめて——！
豊モノローグ 　あの人、何で抵抗しないんだろう。本気でかかれば、あんなチンピラくらい倒せる
だろうに。やっぱりバックが怖いんだろうか。
豊ナレーション 　たくさんの人だかりの真ん中で、その白人はただ殴られるに任せていた。女
性が助けを求めて叫んでいるにもかかわらず、だれ一人としてそのチンピラを
止める者はいなかった。そういうおれも、怖さに体をこわばらせながら、何もで
きずにただ見守るだけだった。いや、本当は、怖くて何もできない自分自身に、
怒りを覚えていたのだ。
男B 　　(激しい息遣い)今日はこれくらいで勘弁してやらあ。命拾いしたな。今度から
おれ様には刃向かわないこったな。分かったか！
女性 　　だ、大丈夫ですか？すごいケガ…。わたしのためにこんなになって、すみませ
ん。何ておわびしていいか。
宣教師 　　いえ、いいんです。気にしないでください。あなたの責任ではありません。わた
しは神様のためにしたのです。
女性 　　神様のために？
宣教師 　　あなたは、ケガありませんでしたか？
女性 　　ええ、わたしは大丈夫です。それより、傷がひどいですから、病院へ行きましょ
う。
豊ナレーション 　その白人は、女性に付き添われて病院へ行ったようだった。
豊モノローグ 　しかしあの人、よくチンピラなんかに注意できたよな。いくら相手が弱そうだっ
て、一見してヤクザと分かる男に、普通はそんなことしない。何てったって、あ
とが怖いもんな。それに、いくら日本が平和だって言っただって、最近は何事か
になってきて、ささいなことが殺人事件になるっていうのに。それにしてもあの白
人の人、少しぐらいはチンピラを懲らしめてやればよかったんだ。やっぱりお
れたちのように、バックが怖かったのかな。
豊 　　次の日、おれは教会を訪ねていった。

<後編>
豊 　　えっとー、確かこの辺だったんだけどなあ、先輩に教えてもらった場所は…。ケ
ーキ屋の斜め前のビルの2階にあるって言ってたと思ったんだけど…。あ、あ
った。あれだ。

豊ナレーション　そこは、薄汚い古いビルの 2 階を借りた小さな教会だった。何かいかかわしい雰囲気のある建物だったが、中に入ってみると、その外見とは裏腹に、非常にアットホームな明るい感じの教会だった。

岡田　あ、来た来た。いらっしやい！　すぐ分かった？

豊　ちょっと分かりづらかったけど、何とか来られました。

岡田　早速だけど紹介するよ。彼がここの牧師を務めている宣教師のカーペンターさん。

宣教師　カーペンターです。やっと会えましたね、郷さん。

豊ナレーション　そう言って手を差し出した宣教師を見て、おれは驚いた。顔中アザだらけで、左手に包帯を巻いたその人は、昨日の白人だったのだ。

豊　ええ？　この人が例の宣教師さんなんですか？

岡田　何だい？　先生のこと知ってんの？

豊　いえ、そうじゃないんですけど、昨日チンピラに絡まれているのを見たんです。

カーペンター　オー、あなた昨日のことを見てたんですか？　お恥ずかしい。

豊　恥ずかしくなんかありませんよ！　昨日の先生の行動は立派でした。おれみたいな弱虫には絶対マネできません。

カーペンター　いえいえ、そんなことはありませんよ。

岡田　それから、あちらが渡辺ご夫妻。今日は親せきの家に来られていて、礼拝を守るためにこの教会に来てくださったんだ。渡辺さん、僕の後輩の郷君で…。

義男の母　よ、義男！　義男じゃないの！

豊　え？

義男の父　母さん、義男のわけがないだろう。いやあ、それにしても、義男にそっくりだ！

岡田　義男君って、だれなんですか？

父　あ、大変失礼しました。郷君でしたっけ？　驚かせてしまってすみません。実は、君がわたしたちの死んだ息子によく似ていたものですから。

カーペンター　息子さんはどうして亡くなられたのか、お伺いしてもいいですか？

父　ええ。実は、息子は 2 年前アメリカに留学中、誤って銃を撃たれて殺されたんです。

豊　もしかして、ハロウィーンで撃たれた義男君ですか？

母　ええ、そうです。

豊　そうだったんですか。実はおれ、あさってアメリカに留学する予定なんです。でも義男君のことを聞いたり、先日の日本人留学生銃撃事件のことを聞いたりして、アメリカへ行くのが怖くなってしまったんです。で、正直言ってまだ迷ってるんです。行くべきかどうかって。

父　アメリカはいい国です。わたしも若いころアメリカに住んだことがあるので分かります。いつも新しいエネルギーに満ちていて、西部開拓時代のフロンティア

スピリットが、今でもアメリカ人の心のうちには生きている。しかし同時に、アメリカを蝕んでいる銃の問題も、ここに端を発している。本当に難しい問題です。

豊
父
岡田
(効果音)
カーペンター

そういえば渡辺ご夫妻は、アメリカに銃規制を訴えるために、署名運動をされていると伺いましたが、本当にアメリカから銃はなくなるのでしょうか？

そうですね。わたしは、アメリカには自己回復能力があると思っています。アメリカは以前にも、黒人差別を、多大な努力と犠牲を払って克服してきました、第2次大戦中の日系人強制収容にしたって、戦後40年もたっても、ひとたび悪かったと認めると、正式に謝罪して補償するなど、我々も見習うべき“理性の国”です。銃の問題は、日本の“刀狩”のように単純にはいきません。犯罪の多さや麻薬問題、さらには雇用や法律や伝統など、非常に多くの問題が複雑に絡み合っています。しかし、この国がそのパワーと理性と勇気を持って銃問題を克服する日が必ず来ると、わたしは信じています。

そうですね。あ、先生。もう礼拝が始まる時間です。

(賛美歌)

今日の聖書の箇所は、ヨハネの福音書3章16節です。お読みします。「紙は、実に、その一人子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じるものが、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。」世の中は冷たいです。人は強い者に従い、弱い者は踏みにじられ、無視されます。そこで弱い者は集団を作ります。会社でも、地域でも、学校でも、いいえ、ヤクザの世界だってそうです。一人では不安なので、そうすることによって集団の力を得、安心するのです。あなたは、自分がそんな弱い者だと感じたことはありませんか？ あなたはまた、ひそかに一人、老後の心配をしたことはありませんか？ いつの日か、だれも自分に振り向いてくれない日が来ることを心配していませんか？

豊モノローグ

そうだ。おれも弱い無力な人間だ。それが分かってるからこそ、単身アメリカに行くのが怖いんだ。危険が多いアメリカで、頼れるものがないところで暮らさなくてはいけないことのほうが、実は怖いのかもしれない。

カーペンター

しかし、知ってください。神様はいつもあなたを愛してくださっているのです。神様の愛は、人間の愛などとは比べられないほど深いものです。神様は、人間がその罪ゆえに滅びていくのを見て耐えられず、その一人子イエス・キリストをこの世に遣わし、わたしたちの身代わりとして十字架につけました。それほど、神様はわたしたちを、あなたを愛してくださっているのです。その結果、わたしたちが悔い改め、神様を信じれば、何の代価も払わずに永遠の命を頂くことができるようになりました。弱い人を弱さのままに、また、この世でだれ一人自分のことを顧みてくれなくなっても、独りぼっちになっても、神様はいつもあなたと共にいて、守ってくださいます。わたし自身、本当に弱い人間です。それを

隠すように、わたしは昔、暴力に頼って生きていました。武術を身に着け、拳銃^{けんじゆう}を買い、気に食わないことがあると、すぐ暴力に訴えていました。そしてある時、ささいなことから一人の男性を地面にたたきつけ、一生いえない障害を与えてしまったのです。その罪の苦しみの中から、わたしは神の救いを求め、イエス様の十字架のご愛を信じて、罪を許していただきました。わたしはその時、自分が一番憎んでいる人を愛する者にしてくださいと祈りました。すると神様は、「日本へ行け」とおっしゃったのです。わたしの父も、叔父も、第2次大戦の時、フィリピンで日本軍に殺されました。わたしはずっと日本人を憎んできました。でもわたしは、今こうして日本の皆さんの前に立っています。わたしは心から皆さんを愛し、一人一人に、この神様の愛を知っていただきたいと願っています。人の心にある恐れと憎しみは、銃や暴力では決して消えない。むしろ増すだけです。あなたの心が、イエス様の許しの愛に満たされるとき、人の心は本当に変えられるのです。

豊ナレーション
豊モノローグ

おれは、そう話す宣教師の目が、涙でうるんでいるのを見た。
これか…。これだったんだ、先生がチンピラに殴られた時に抵抗しなかったわけは。あの時、すでに先生はあの男を許していたんだ！ おれは今まで、アメリカ人はみんな自分の身を守るためなら何でもするんだと思い込んでいた。でも、この人は違う。人をこんなに変えることができる神様がいたなんて…。

豊ナレーション
(効果音)

何か大きな力が、おれの心の中の恐れを包んでいくような気がした。
(ジェット機の離陸音。)

豊ナレーション

2日後、おれはアメリカ行きの飛行機の中にいた。おれは、礼拝のあと、渡辺さんが教えてくれたイエス・キリストの言葉を思い出した。

ナレーション

(エコー)「見よ、わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたと共にいます。」(マタイ28章20節)

豊ナレーション

飛行機が離陸し、澄み切った大空へと昇っていく。この空の向こうに、アメリカがおれを待っている。不安が全然ないと言ったらウソになる。でも、あのカーペンターさんの目を思い出すと、おれの心は不思議な安らぎに満たされた。

豊モノローグ

「見よ、わたしは、あなたと共にいる」、か…。

豊ナレーション

おれは、心の中でそとつづやっていた。

(完)